

令和 8 年度 シラバス

教科名 家庭

愛媛県立宇和高等学校

家庭基礎

愛媛県立宇和高等学校

教 科		家 庭		単位数	2	対象	総合学科1年		
使用教科書		ウェルビーイングへつなぐ 家庭基礎 (教育図書株式会社)		副教材等	ウェルビーイングへつなぐ家庭基礎 マスターノート・調理実習ノート		履修	必修・選択	
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路			
一生を見据えた家族や地域社会との関わり、衣食住のあり方、高齢者の分野について、将来の自立やよりよい生活のために必要な知識や技術を学びます。また、調理実習を通して基礎的な調理技術を習得します。				人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族、子ども、高齢者、そして社会との関わりについて理解します。 生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身に付けます。		条件はありません。			
学 習 の 二 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メモ		
	一 学 期	A 編 生涯の生活設計 1 1章 青年期の自立と家族・家庭 2章 子どもの生活と保育 3章 高齢期の生活と福祉 4章 共生社会と福祉		高校家庭科の履修について ①あなたの将来、どうする？ ②自立への一歩を踏み出そう ③家族・家庭って何？ ④将来の自分と家庭を想像する ①子どもはどう生まれ育つ？ ②子どもの生活にどうかかわる？ ③子育てで社会の課題とは？ ④高齢期ってどういう時期？ ⑤高齢化する日本を生きる ①共生って何だろう ②ともに支え合う社会とは		科目説明、学校家庭クラブ、ホームプロジェクト 1人は一生発達する 2 これからのライフイベント 1あなた自身を知ろう 2 5つの自立 1家族を築くこと 1現在の家庭を取り巻く状況 2 男女共同参画社会 3 家族と社会 1子どもの成長の特徴 1親の役割 2 生活習慣と子どもの生活 1現在の日本の子育て事情 2 子育てを支えるしくみ 1高齢者とは 2 高齢期の心身の変化 3 高齢期の健康 4 高齢期の生活 1高齢化の現状 2 超高齢社会の課題 3 安心できる暮らし 1共生社会とは 2 リスクと社会保障制度 【期末考査】 1 ノーマライゼーション 【ホームプロジェクト】			
		B 編 1章 食生活と健康 2章 衣生活と健康		①なぜ食べるのだろうか？ ②私たちは何を食べている？ ③食品を選ぼう ④今と未来の体をつくろう ⑤持続可能な食生活を目指そう ①衣服の役割ってなんだろう？ ②衣服はどうやって作られている？ ③衣服の計画・管理を知ろう ④今後の衣生活を考えよう		1 生活習慣と食事 2 ライフステージと食事 3 現代の食生活 1 食品に含まれる栄養素 2 栄養素の分類 3 栄養素と食品 【調理実習①】 1 食品の選び方 2 安全に食べるために 3 「おいしさ」とは 【調理実習②】 1 食事を摂る基準 1 私たちの食生活と環境 2 食文化を継承しよう 【調理実習③】 1 衣服と私たち 2 衣服の機能 3 人の一生と衣服 1 衣服の材料 2 衣服の構成 1 衣服を選ぶ 2 衣服の手入れ 3 衣服の保管 【期末考査】 1 環境や人にやさしい衣生活 衣生活の未来			
		3章 住生活と住環境		①私たちの暮らす住まいとは？ ②快適・安全に暮らそう ③持続可能な住まいのために ④何をどうやって買う？ ⑤将来の経済計画を考えよう ①未来の地球環境は大丈夫？ ②持続可能な消費行動とは		1 住まいの役割 2 平面図の読み方 1 住まいに求めるもの 2 快適に暮らすための工夫 3 安全・安心な暮らし 4 これからの快適な暮らし方 5 災害への備え 1 持続可能な住まい 1 消費者と意思決定 2 契約の重要性 3 多様化する支払い方法と返済方法 1 さまざまな消費者問題 2 消費者を守るしくみ 1 消費者の権利と責任 2 消費者と持続可能な社会 1 消費生活と経済のつながり 2 家計の収入と支出 3 家計の財産の管理 1 人生にかかるお金とリスク 1 暮らしと環境問題 2 社会の取り組み 1 持続可能な消費 2 消費者としての自覚と行動 【学年末考査】			
		C 編 1章 消費生活と経済計画 3章 持続可能なライフスタイルと環境							
	【授業】自らの生活を振り返りながら臨みましょう。板書やノートの記入を必ずしましょう。実習では忘れ物をしないよう気を付け意欲的に取り組みましょう。 【復習】単元によっては該当範囲の教科書を読み返し、内容を理解しておきましょう。また、学習したことを家庭で実践しましょう。 【予習】特に必要ありませんが、家庭生活の様々な問題に興味・関心を持ちましょう。								
	評 価 の 観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。			生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、課題解決のため思考を深めて工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ、判断できる。また、課題解決の学習から導き出した考えを的確に表現することができる。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		
	評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
					(評価方法) 定期考査、授業プリント、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)									

家庭総合

愛媛県立宇和高等学校

教 科	家 庭	単位数	2	対 象	生物工学科 2年	
使用教科書	未来へつなぐ 家庭総合 365 (教育図書株式会社)	副教材等	未来へつなぐ家庭総合 365 マスターノート		履修	必修・選択
授業の概要			到達目標		履修の条件・進路	
一生を見据えた食生活のあり方、住生活の分野について学び、将来の自立やよりよい生活のために必要な知識や技術を身に付けます。また、保育分野の学習を通して、生命の尊さ、子育ての意義について考え、子どもの心身の発達や生活についての知識を身に付けます。			人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族、高齢者、それらと社会との関わりについて理解します。 生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身に付けます。		条件はありません。	
月	単 元 名	学 習 内 容				メモ
学 期 の 年 間 計 画	B編 第1章 食生活と健康	①なぜごはんを食べるの？ ②私たちは何を食べているの？ ③安全に食べよう ④健康に食べよう ⑤おいしく食べよう		1 毎日の食事を考えてみよう 2 ライフステージに合った食生活 1 食品にはどんな栄養素が含まれる？ 2 栄養素を分類しよう 3 栄養素と食品を見てみよう 1 食品を選んでみよう 2 食中毒と安全 1 何をどれだけ食べる？ 1 「おいしさ」って何だ？ 【調理実習】【食物調理技術検定3級】 【期末考査】		
	B編 第3章 住生活と住環境	⑥これからも食事を楽しむために ①どのような家に住みたい？ ②安全に住もう ③快適に住もう ④住まいの課題と未来の暮らし		1 私たちの食生活と環境 2 食文化を継承しよう 3 未来の食生活 1 住まいって何だ？ 1 安全・安心に暮らそう 1 つながって暮らそう！ 2 快適に暮らそう 1 持続可能な住まいへ 2 これからどう暮らしていこう 【期末考査】		
	A編 第3章 子どもの生活と保育	①子どもはどう生まれ育つ？ ②子どもとどうかかわろう？ ③これからの子育てとは？		1 子どもの成長の特徴 1 親の役割 2 生活習慣と子どもの生活 1 現在の日本の子育て事情 2 子育てを支えるしくみ 3 子どもの権利と福祉 【学年末考査】		
学 習 方 法	【授業】 自らの生活を振り返りながら臨みましょう。板書やマスターノートの記入を必ずしましょう。実習では忘れ物をしないよう気を付け意欲的に取り組みましょう。 【復習】 単元によっては該当範囲の教科書を読み返し、内容を理解しておきましょう。また、学習したことを家庭で実践しましょう。 【予習】 家庭生活の様々な問題に興味・関心を持ちましょう。					
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	生活を主体的に営むために必要な食生活、住生活と住環境、子どもの生活と保育などに関する基礎的な内容について理解している。調理に関する基本的な技術を習得し、住居の適切な維持・管理のしかた、保育に関する適切な技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、課題解決のため思考を深めて工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ、判断できる。また、課題解決の学習から導き出した考えを的確に表現することができる。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、授業プリント、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

保育基礎

愛媛県立宇和高等学校

教 科	家 庭	単位数	2	対象	普通科 2年1型
使用教科書	保育基礎（実教出版）		副教材等	履修	必修修・選択
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路	
保育の必要性について学習する中で、子どもへの関心を深め、実践的・体験的な学習を通して、適切に子どもとかわることができるようにしていきます。		乳幼児の発達の特徴や乳幼児の生活や保育に関心を持つことができる。 実践的・体験的な学習を通して、保育の必要性和意義を理解する。		条件はありません。 保育士や幼稚園教諭を進路先として希望する人は履修したほうが望ましい。	
学 期 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容		
	一 学 期	1 章 子どもの保育	1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境		
		I 保育とは II 保育の意義 I 保育者の役割 II 一人ひとりに合わせた指導 I 家庭での保育 II 幼児教育・保育の場 III 子どもが育つ環境の変化と課題			
		【保育実習①】 【保育技術検定3級】 【期末考査】			
二 学 期	2 章 子どもの発達	1 子どもの発達の特徴 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達			
	I 発育と発達 II 発達の共通性と個別性 I 発育・発達の評価 II 身体的特徴 III 生理的特徴 I 社会・情緒的な発達 II 知的発達 III 言葉の発達				
	【保育実習②】 【期末考査】				
三 学 期	3 章 子どもの生活	1 子どもの生活と養護 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止			
	I 生活と養護 II 栄養と食事 III 衣生活 I 子どもの生活習慣 II 基本的な生活習慣 III 社会的生活習慣 I 子どもの健康管理 II 事故の防止と応急措置				
	【離乳食をつくろう】 【期末考査】				
学習方法	【授業】子どもに興味関心を持ちましょう。 【復習】積極的に子どもとかわりましょう。 【予習】保育実習前は実習の目標をたてる、予行演習をするなどの事前学習をしておきましょう。				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	保育に関する基礎的・基本的技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健全な発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。
評価方法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。	1 学期	2 学期	3 学期	年度末
		（評価方法）定期考査、ノート、技術検定、レポートなどを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均
到達目標に対する自己評価 （A・B・Cの3段階）					

保育基礎

愛媛県立宇和高等学校

教 科	家 庭	単位数	2	対象	生物工学科 3年	
使用教科書	保育基礎 (実教出版)	副教材等		履修	必修修・選択	
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
保育の必要性について学習する中で、子どもへの関心を深め、実践的・体験的な学習を通して、適切に子どもとかわることができるようにしていきます。		乳幼児の発達の特徴や乳幼児の生活や保育に関心を持つことができる。 実践的・体験的な学習を通して、保育の必要性と意義を理解する。		条件はありません。 保育士や幼稚園教諭を進路先として希望する人は履修したほうが望ましいです。		
学 習 内 容	月	単 元 名	学 習 内 容			
	一 学 期	1章 子どもの保育	1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境	Ⅰ 保育とは Ⅱ 保育の意義 Ⅰ 保育者の役割 Ⅱ 一人ひとりに合わせた指導 Ⅰ 家庭での保育 Ⅱ 幼児教育・保育の場 Ⅲ 子どもが育つ環境の変化と課題 【保育実習①】		
		2章 子どもの発達	1 子どもの発達の特性 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達	Ⅰ 発育と発達 Ⅱ 発達の共通性と個別性 Ⅰ 発育・発達の評価 Ⅱ 身体的特徴 Ⅲ 生理的特徴 Ⅰ 社会・情緒的な発達 Ⅱ 知的発達 Ⅲ 言葉の発達 【保育技術検定3級】 【期末考査】		
		二 学 期	3章 子どもの生活	1 子どもの生活と養護 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止	Ⅰ 生活と養護 Ⅱ 栄養と食事 Ⅲ 衣生活 Ⅰ 子どもの生活習慣 Ⅱ 基本的生活習慣 Ⅲ 社会的生活習慣 Ⅰ 子どもの健康管理 Ⅱ 事故の防止と応急措置 Ⅰ 子どもの文化 Ⅱ 子どもの遊びと表現活動	
			4章 子どもの文化	1 子どもの文化の意義と支える場 2 子どもの遊びと表現活動	Ⅰ 遊びと発達 Ⅱ 遊びと表現活動 【保育実習②】 【保育技術検定2級】 【期末考査】	
三 学 期	5章 子どもの福祉	1 子ども観 2 子どもの福祉 3 子育て支援	Ⅰ 子ども観の変遷 Ⅱ 権利の主体としての子どもへ Ⅰ 児童福祉 Ⅱ 子どもをとりまく課題と対策 Ⅲ 子どもが育つ社会環境 Ⅰ 子育て支援からパートナーシップへ Ⅱ 社会的養護 Ⅲ 地域の子育て支援 【学年末考査】			
学 習 方 法	【授業】子どもに興味関心を持ちましょう。 【復習】積極的に子どもとかわりましょう。 【予習】保育実習前は実習の目標をたてる、予行演習をするなどの事前学習をしておきましょう。					
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	保育に関する基礎的・基本的技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。	1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
		(評価方法) 定期考査、ノート、技術検定、レポートなどを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

保育基礎

愛媛県立宇和高等学校

教 科	家 庭	単位数	2		対象	普通科 3年I型	
使用教科書	保育基礎 (実教出版)		副教材等	なし		履修	必修修・選択
授業の概要			到達目標		履修の条件・進路		
保育の必要性について学習する中で、子どもへの関心を深め、実践的・体験的な学習を通して、適切に子どもとかわることができるようにしていきます。			乳幼児の発達の特徴や乳幼児の生活や保育に関心を持つことができる。 実践的・体験的な学習を通して、保育の必要性和意義を理解する。		条件はありません。 保育士や幼稚園教諭を進路先として希望する人は履修したほうが望ましいです。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メモ	
	一 学 期	3章 子どもの生活	1 子どもの生活と養護	Ⅰ生活と養護 Ⅱ栄養と食事 Ⅲ衣生活			
			2 生活習慣の形成	Ⅰ子どもの生活習慣 Ⅱ基本的な生活習慣 Ⅲ社会的生活習慣			
			3 健康管理と事故防止	Ⅰ子どもの健康管理 Ⅱ事故の防止と応急処置 【保育技術検定2級】 【保育実習①】 【期末考査】			
	二 学 期	4章 子どもの文化	1 子どもの文化の意義と支える場	Ⅰ子どもの文化 Ⅱ子どもの文化を支える場			
			2 子どもの遊びと表現活動	Ⅰ遊びと発達 Ⅱ遊びと表現活動 【保育実習②】 【期末考査】			
三 学 期	5章 子どもの福祉	1 子ども観	Ⅰ子ども観の変遷 Ⅱ権利の主体としての子どもへ				
		2 子どもの福祉	Ⅰ児童福祉 Ⅱ子どもをとりまく課題と対策 Ⅲ子どもが育つ社会環境				
		3 子育て支援	Ⅰ子育て支援からパートナーシップへ Ⅱ社会的養護 Ⅲ地域の子育て支援 【学年末考査】				
学 習 方 法	【授業】子どもに興味関心を持ちましょう。 【復習】積極的に子どもとかわりましょう。 【予習】特に必要ありません。						
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	保育に関する基礎的・基本的技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与している。こうとする実践的な態度を身につけている。		
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
			(評価方法) 定期考査、技術検定、ノート、作品製作などによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)							

フードデザイン

愛媛県立宇和高等学校

教科	家庭	単位数	2	対 象	普通科・2年Ⅰ型		
使用教科書	フードデザイン (実教出版)	副教材等	調理実習ノート(基礎編・専門編)		履修 必修・選択		
授業の概要			到達目標	履修の条件・進路			
食することは健康的で安全な生活を営む基本であることを理解し、食生活の現状を把握し、問題の解決に必要な知識や技術を学びます。食品の栄養的特徴や調理性などを調理実習や実験を通して学習します。			栄養素の種類とはたらきについて理解し、それらの消化・吸収過程を把握します。栄養バランスのよい食事計画を作成し、食材を調理するための知識と技術を身に付けます。 安全や環境に配慮した食生活を営むことができるようになります。	食関連の職業(調理師、栄養士、パティシエなど)に興味のある人は履修することが望ましいです。			
学年間の計画	月	単 元 名	学 習 内 容			メモ	
	一学期	第1章 食生活と健康	1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	①からだをつくる食事 ②食生活を豊かにする食事 ①栄養摂取の変化と現状 ②生活習慣病と欠食 ③ライフスタイルの変化 ④食料自給率と食品ロス ⑤食品の安全と環境の変化			
		第2章 栄養素のはたらきと食事計画	1節 栄養素のはたらき 2節 ライフステージと栄養 3節 食事摂取基準と食事計画	①食物の摂取と栄養 ②炭水化物 ③脂質 ④たんぱく質 ⑤ミネラル ⑥ビタミン ⑦その他の食品成分 ⑧エネルギー ①乳幼児期の栄養 ②青少年期の栄養 ③成人期の栄養 ④高齢期の栄養 ①日本人の食事摂取基準 ②食事計画 【調理実習】【食物調理技術検定3級】 【期末考査】			
		第3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通	①穀類 ②いも類 ③砂糖 ④豆類 ⑤種実類 ⑥野菜類 ⑦くだもの類 ⑧きのこ類 ⑨海藻類 ⑩魚介類 ⑪肉類 ⑫卵類 ⑬牛乳・乳製品 ⑭油脂類 ⑮かんてん・ゼラチン ⑯嗜好食品 ⑰調味料・香辛料 ⑱加工食品と加工方法 ⑲特別用途食品と保健機能食品 ①第一次産業の現状 ②食品の生産 ③食品の流通 【調理実習】 【期末考査】			
三学期		3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全	①多様化の背景と現状 ②食品の選択 ③食品の表示 ①食中毒 ②台所の衛生 ③食品添加物 【調理実習】 【学年末考査】				
学習方法	【授業】自らの生活を振り返りながら臨みましょう。板書や調理実習ノートの記入を必ずしましょう。実習では忘れ物をしないよう気を付け、意欲的に取り組みましょう。 【復習】単元によっては該当範囲の教科書を読み返し、内容を理解しておきましょう。また、学習したことを家庭で実践しましょう。 【予習】食生活における様々な問題に興味・関心をもちましょう。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	食事の意義と役割について理解するとともに豊かな食事を構成する要素として養・食品・調理などに関する知識を習得している。 食品の正しい扱い方や調理に関する技術を習得している。		自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深めている。また、考えをまとめて判断ができそれを表現することができる。		食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて、計画する意欲と実践的な態度を身に付けようとしている。		
評価方法			1学期	2学期	3学期	年度末	
	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)							

フードデザイン

愛媛県立宇和高等学校

教科	家庭	単位数	2	対象	普通科3年I型
使用教科書	フードデザイン (実教出版)		副教材等	調理実習ノート(専門編)	履修 必修・選択
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路	
食べることは健康的で安全な生活を営む基本であり、食生活の現状を把握し問題の解決に必要な知識、技術を学びます。食品の栄養的特徴や調理性など調理実習や実験を通して学習します。		食品の栄養的特徴を知り、日常の食生活の栄養バランスを考えることができる。 調理の基本的な技術を身に付ける。 食品の安全性、環境問題など広い視野で食の自立を目指す。		条件はありません。	
学習計画	月	単 元 名	学 習 内 容		メ モ
	一学期	4章 調理の基本	1 調理とおいしさ	①調理の目的 ②食べ物のおいしさ ③調理器具と調理操作	【調理実習①】 【調理実習②】
			2 調理操作	①非加熱操作 ②加熱操作	【調理実習③】 【調理実習④】
			3 調味操作	③加熱調理器具	【調理実習⑤】
	二学期	5章 料理様式とテーブルコーディネート	1 料理様式と献立	①日本料理の様式と献立 ②西洋料理の様式と献立 ③中国料理の様式と献立	【調理実習⑥】 【調理実習⑦】 【調理実習⑧】
			2 テーブルコーディネート	①テーブルコーディネートとは ②テーブルコーディネートのポイント ③和風・洋風・中国風のテーブルコーディネート ④室内のテーブルコーディネート	【調理実習⑨】
6章 フードデザイン実習		1 献立作成	①日常食の献立作成 ②供応食・行事食 ①テーマ設定と調理実習	【期末考査】	
三学期	7章 食育	1 食育の意義と推進活動	①食育基本法 ②家庭や地域における食育推進活動	【調理実習⑩】 【期末考査】	
学習方法	【授業】板書を必ずノートにとり、実験・実習では忘れ物をしないよう注意し意欲的に取り組みましょう。 【復習】実習したことを家庭の中で実践していきましょう。 【予習】特に必要ありません。				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	栄養、食品、献立、調理などに関する基本的な知識を身に付け、食事の意義や役割を理解している。調理に関する基本的な技術を身に付け実践できる。		食事を総合的にデザインすることを目指し、学習した知識や技術を活用して創意工夫する力が身に付いている。		食生活に関する諸問題に関心を持ち、その改善・向上を目指し、意欲的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	※上記の3つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)					1・2・3学期の平均

ファッションデザイン

愛媛県立宇和高等学校

教 科		家 庭		単位数	2	対象	生物工学科 3年	
使用教科書		ファッションデザイン (実教出版)		副教材等	なし		履修	必修修・選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
ファッションデザインの基礎について学習する。デザイン画作成や被服製作等、実習を通して学習する。				ファッションデザインの基礎、発想と表現法などに関する知識と技術を習得させる。 ファッションを楽しみ、創造的にデザインする態度を育てる。		特にありません。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メ モ	
	一 学 期	第1章 ファッションデザインの意味		被服製作をしよう	・被服製作を行うことで、デザインや被服構成について理解を深める 【ポケットティッシュケース製作】 ① 基礎縫い（ミシン縫い） ② 基礎縫い（手縫い） 【アウターパンツの製作】 ① 裁断 ② 縫いしろのしまつ縫製			
		第2章 ファッションデザインの基礎						
	二 学 期	第3章 ファッションデザインの発想と表現		リフォームのデザインしよう	③ 仕上げ リフォーム作品の製作 1 発想の力 2 発想とイメージ			
		第4章 ファッションデザインの目的と発想		3節 ファッションデザインの条件	1 身体的な快適性 2 自己表現と満足感 3 社会への協調と連帯感 4 衣服の管理と耐久性 *防寒用小物の製作【冬季休業中の課題】			
三 学 期	第5章 ファッション産業		1節ファッション産業の仕組み	1 ファッション産業とは 2 ファッション産業の変遷 3 ファッション産業の構造				
学 習 方 法	【授業】特に実習における準備をきちんと行い、意欲的に取り組みましょう。 【復習】特に必要ありませんが、準備物の確認をしましょう。 【予習】授業の準備を整えるようにしましょう。							
評 価 の 観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	ファッションをデザインすることの基礎的な知識・技術を身に付けている。創意工夫して製作に取り組み、作品を仕上げるができる。			ファッションを総合的にデザインすることを目指し、学習した知識や技術を活用する力が身に付いている。			ファッションに関して関心を持ち、創造的、意欲的に取り組む態度を身に付けている。	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
				(評価方法) 到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

生活探究

愛媛県立宇和高等学校

教 科		家 庭		単位数	1	対象	普通科 2 年 (I 型)	
使用教科書		LIFE おとなガイドデジタル+ (教育図書)		副教材等		履修	必履修・選択	
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
「家庭基礎」で学んだ基礎知識を活かしてさらに深く学びます。実践的な内容で、将来の自立に向けた知識や技術を習得できます。				「家庭基礎」の内容をより深く理解するとともに、次世代を担う存在として必要な知識や技術を身につけ、実践的な態度や技術を養います。		条件はありません。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メモ	
	一 学 期	第1章 消費生活		1 契約 2 家計の管理 3 消費者市民社会		①悪質商法 ②若者の消費者トラブル ①収入と支出 ②キャッシュレス決済 ①消費行動 ②エシカル消費		
	二 学 期	第7章 衣生活		1 衣服の原料、手入れ 2 衣服を楽しもう		①衣服の原料・繊維 ②衣服の表示 ③衣服の手入れ ①衣服と健康・安全 ②サステナブルファッション 【被服実習】 【期末考査】		
	三 学 期	第10章 食生活		1 食と健康 2 食と環境 3 これからの食生活		①食の変遷 ②未来の食生活 ③食料自給率 ①地産地消 ②食品ロス ①食品成分表 ②データの活用		
	三 学 期	第4章 保育		1 性と妊娠 2 乳児のお世話 3 親になること		①性と妊娠の基礎知識 ②母体の変化と胎児の発育 ①乳児期の子どもの発達 ②子どもの生活 ①親になることとは ②子育て支援政策 【期末考査】		
学 習 方 法	三 学 期	第8章 住生活 アクティブな学び		1 住まいの役割 2 ライフステージと住居 3 災害や防犯に強い家 4 快適な住まい 5 住まいを通じて社会とつながる		①住まいの役割 (世界・日本の住まい) ①ライフステージと住まい ②住空間づくり ①災害に強い家 ②防犯に強い家 ①安全で快適な住環境 【期末考査】		
	【授業】将来の生活設計を考えながら、授業に臨みましょう。 【復習】自らの生活を振り返り、改善できることを考えてみましょう。 【予習】将来の生活設計や目標を明確にしていきましょう。							
評 価 の 観 点	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	生活を主体的に営むために必要な知識に加えて、資料やデータの情報を客観的に読み解くことができる。			資料や調査の読み取りに加え、対立する意見やアンケート、グラフの分析ができる。自分の考えをまとめて小論文を書くことができる。			様々な人々と協同し、よりよい社会の構築に向けて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして地域社会に参画しようとしている。	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
				(評価方法) 到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								